

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は出来ているが、中々職員全員に共有出来てないところがある。	施設として、理念の趣旨、重要性については十分理解していて、パンフレットに記載し、施設内にも掲示をしています。ただ、昨年、多数の職員の交代があり、それらに対し理念を共有し、日常のケアに実践するところまで至っていません。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入り、近くの公民館や中学校の催しものに参加したりしています。	施設として、自治会に加入します。その活動の一環として公民館での女性だけのイベントに参加したり、最寄りの中学校でのサッカーなどスポーツの観戦にも出かけています。しかし、利用者が行動するような積極的な参加は実現していません。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中々できていません		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	一回の会議で出た意見が全てではないが参考にしつつ少しずつ活かしています。	運営推進会議はこの1月に第5回目を開催しました。出席は、市の包括、介護保険課の職員、家族代表(毎回ではない)が出席しています。地域代表の出席を促すため、回覧板回送の際等を利用し声掛けをしています。	会議録は作成されていますが、それをファイルに綴る等の管理が不十分です。誰もがいつでも見られる状態を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話でのやり取りを基本に、時には来ていただいてその場で話し合いもしたりしています。	利用者の半数が生保受給者であることから、市の介護支援課とは何かと連絡をとっています。電話による連絡のほか、施設に来てもらうこともあり、今後のケアについての指導を受けたりしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間時は玄関の施錠はしていますが日中はしていません。	物理的な身体拘束の禁止は当然のこととして認識しています。そのほか、「ちょっと待って！動かないで！」などの言葉も状況によっては精神的な拘束になる場合もあるので、職員全体で注意するようにしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新しい利用者、新しいスタッフが入った時は、特に注意しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的ではないが、それぞれが学び活用しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に不十分だったと思われる点は、後日電話などで受け付け対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特に悪い点があった場合出来るだけ早急に改善するよう心がけています。	家族が面会にきた際には、管理者はできるだけ家族と話す機会を設けるようにしています。その際は利用者の直近の状態を伝えると共に、家族の意見も十分聞くようにしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時受付、代表者へ報告しています。	管理者と職員も大幅に交代したこともあり、職員間の相性の問題とか、新しい職務に対する不満等の把握、調整に時間を割いています。出された意見は代表者へ随時報告をしています。職員会議とかミーティング等の機会は持っていません。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働いていただけていますが、中々思うように行てない様子。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同系列の施設への見学、出向などで対応しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	シフト上可能な限り行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人にまず挨拶程度から入り、時間をかけ少しずつ行います。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	対面、電話などで必要に応じて行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは対面にて本人、家族がいるところで話し合いをさせて頂いています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフの都合で動いてもらわず、あくまでご自分の意思を優先していただいています。(但し、他の方の迷惑とならない限り)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家での状況、施設での状況のやり取りを細目に行い話し合いもしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	友人、本人の希望に出来る限り沿うようにしています。	基本的には利用者や友人の希望に沿うように配慮しています。具体的には独居の方が入居し、その友人を施設に案内したことがあり、また、利用者を別の友人のところへ案内したこともあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性もありますが、スタッフが利用者ではなく、利用者が利用者というスタイルで利用者同士でかかわりを持っていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族やケアマネを通じ電話でのやり取りのみですが行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	他の方の迷惑になる事以外は、沿うようにしています。	なるべく本人の意向を尊重しているが、徘徊する方の場合、他の利用者の部屋に入ろうとした際は抑制をしています。口数の少ない方の場合、状況に応じて意向を話すことがあるので、なるべく丁寧に時間をかけて聞くように配慮しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の会話の中で少しずつ収集しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の観察を通し把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	話し合いに細かく変えています。	新しい入居者の場合、本人、家族等の意見をきき、また、介護サマリーなども参考にしながら計画を立てています。継続の方の場合、日々の状況を見ながらその変化を考え、およそ1年ほどで見直しをしていますが十分とは言えません。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日のうち、特に変わったことは他のスタッフにも報告することを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	すぐには無理な事でも話し合いにより少しずつ変えられるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	全員に対しては、なかなかできていません		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に家族対応によりかかりつけ医への受診になるが、家族対応が難しい場合、事業所かかりつけ医に変更後職員対応をすることを家族と話し合っています。	現在4名が家族と受診しています。家族の対応が難しい時は病院に職員が付き添います。この病院は協力医でもあるので状況によっては医師が訪問して下さることもあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異常が見られる場合、すぐに看護師に相談、指示をもらっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前、中、後、出来るだけ細かく連絡は取っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族へ説明、相談をした後、家族の意向に沿うように対応します。	重度化や終末期に向けた支援が予想された時点で説明をしています。入院するかあるいは医療行為をせずに施設で過ごすか、状況に応じてその都度家族と相談し対応しています。昨年、当施設で一人の看取りの支援をしました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行っていない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練と対策の資料などを目のつく場所に置いている。	近くにある消防署とは良い関係が作られています。消防署に訓練計画を提出し消防署の指導のもとで、昨年は2回の避難・消火訓練をしました。施設が地域の住宅街と離れているという立地条件によりますが、地域との協力体制はできていません。	職員が少なくなる夜間の災害を想定した訓練が必要と思います。これまでの経過や今後の参考のため、消防計画書を一冊のファイルに綴り、整理しておくことを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	時と場合を使い分け対応しています。	利用者と職員の信頼関係ができ、1対1の時は砕けた会話をしたりもします。その人らしい姿を大切にすることを職員は理解していますが、間違った対応をしてしまう職員にはその都度指導しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話かけた時も決定口調ではなく、本人が選べる内容にして話しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何事においても基本、無理強いはしていません。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る方は自由にしてもらい、自分で難しい方にはスタッフが話かけながら一緒に行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人で食べられる方は自力で、難しい方は食介にて、好き嫌いもあるので、嫌いなものに対しては無理強いしません。	業者より献立と食材を購入し、職員が調理をします。味付けに工夫があり、利用者はほぼ完食しています。利用者は後片付けのお手伝いをしています。誕生日にお赤飯を作ったり、先月は七草粥を作りました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	無理強いにならないように行い、体調に異変があれば医療機関へ相談しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る方は声掛けにて、その他はスタッフが介助		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のリズムをつかみ、声掛けにより排泄を促しています。	利用者の7名は自立しています。排泄チェック表を1週間から2週間つけたものに基づき、排泄のリズムを把握し、それぞれに声をかけています。車椅子の2名には声をかける回数を多くするようにしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	そのような方は動けない方が多い場合があるので、家族、医療機関へ相談しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には声掛けした後に自由に入ってもらっているが、出来ない時がある。	自立度が高い人で毎日入りたいという人もいます。基本的には自由に入浴していますが、介助が必要で手間取ってしまう場合は職員が調整します。隣接の他ユニットと話し、どちらにも入浴できる体制をとっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	決まった時間ではなく、本人の意思で休息就寝してもらっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	申し送りや前後のスタッフで漏れがないようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	危険がない限り、無理しないように役割を振っています。極力本人の好きな物事はしていただいたり、経済力の範囲内で出来る事をやるようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	付き添うスタッフや他の利用者との兼ね合いの中々行っていません。	近くの中学校の行事や公民館の催し物の見学に行っています。同じ系列の他事業所の応援を得てドライブに行くこともあります。事前にわかっていることであれば、同じく応援を依頼しての外出は可能です。しかし、日常的な外出はしていません。	外出は気分転換やストレスの発散、その他様々な刺激を得られる良いチャンスだと思います。他事業所の協力を得られなくとも、日常的に外出できるよう取り組まれることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	行ける方はスタッフと、そうでない方はスタッフが買い物をして、使った金額等本人、家族に報告しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人、家族間の関係など含め、可能な限り自由にかけてたり、手紙などを出したりできます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快感はないと思われるが季節感を出すことはできていない。その代わりにスタッフ、利用者が一緒に作ったものはフロアに飾ったり、貼りだしたりしています。	共用の場合では、例えば職員がカーテンの開け閉めをして採光の調節をしています。利用者が作った切り紙が壁面に飾ってあります。時には職員が通勤の途中で摘んできた花を飾ったり、散歩で拾ったドングリを置いたりして季節感が出るよう心がけています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人の空間は共用にないが、自室での過ごし方は自由。また、共用空間では相性を考えて席を決めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	身の回りの物は極力家族の方に持ち込みをしていただいています。また、スタッフの手伝いで、時折模様替えもしています。	施設にあるベッド、テレビ、小箆箆以外は利用者の使い慣れたものを持ち込んでいます。利用者の希望で、職員の手伝いにより模様替えをしたりして、利用者が生活しやすい居室になるよう心がけています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スタッフ、利用者と一緒に話をしながら「こうしたら良い」「ああしたら良い」と時折変えたりしています。		